



ICT 海外ボランティア会会報

No. 86

2019年6月3日(月)

URL: <https://ictov.jimdo.com> (2017年以降)

<http://www.ictov.jp> (2016年以前)

EML: info.ictov@network.email.ne.jp

目次

◆ 特別寄稿

心不全の話

株式会社ハイホーCEO

当会顧問 鈴木 武人氏

◆ 特別寄稿

徒然日記(4) : シニア海外協力隊顛末記(3)

当会特別顧問 石井 孝氏

◆ 海外グラフィティ

三笠宮崇仁親王と俳句

テレビドラマ「陸王」を観て

借景を香華としての冬の墓所

井原西鶴の俳句と日本永代蔵

日本ベンチャーネット社長 エッセイスト 田上 智氏

◆ 海外便り

スペイン・モロッコ俳句紀行(6)

元 JICA シニア海外ボランティア 北垣 勝之氏

◆ 第 39 回海外情報談話会模様

事務局

◆ 第 40 回海外情報談話会開催のご案内

事務局

心不全の話

当会顧問
株式会社ハイホーCEO
鈴木 武人

昨年、刑事役の貫禄とお惚け、さらに特徴あるしわがれ声で、TV等で活躍していた大杉漣さんが働き盛りの66歳で亡くなられた。身長178cm、体重72kgといういわば理想的な体格でこれからの活躍が期待され、個人的にも好感を持っていた俳優だけに残念な気持ちが残っています。



所属事務所は「弊社所属の大杉漣が、2018年2月21日午前3時53分に急性心不全で急逝いたしました」と公式ホームページで発表しており、ドラマ撮影中に体調不良を訴えていたとの情報も伝えられた。状況としては午後9時に撮影を終え、共演者らと食事に行き、ホテルの部屋に戻った後で腹痛を訴えたという。その後、タクシーで救急病院に搬送され、病院で死去した。

直前まで元気だった人の突然の死。ご家族や関係者には大変なショックでしたでしょう。

医師でもない小生が此处で話題として取り上げさせて頂いたのは、実は小生も心臓に問題があって危うく命を落とす所だったからです。運よく、事前に欠陥が発見され、急遽8時間に及んだ人工心肺による手術、一月半の入院を経て、現在まで生き延びさせて頂いていますので、その経験と皆様の健康のための助言を兼ねてこの原稿を書きました。

さて、日本循環器学会によれば『心不全とは、心臓が悪いために、息切れやむくみが起こり、だんだん悪くなり、生命を縮める病気』であり、また急性心不全とは、「心臓に器質的および/あるいは機能的異常が生じて急速に心ポンプ機能の代償機転が破綻し、心室拡張末期圧の上昇や主要臓器への灌流不全を来し、それに基づく症状や徴候が急性に出現、あるいは悪化した病態」ということです。大杉さんは腹痛があった事から急性心筋梗塞などの虚血性心疾患からきた急性心不全と言うことが考えられます。冬場の温度差の大きい部屋の出入り、即ち風呂で発生する事が多いといわれています。しかしながら、何故心不全、特に急性心不全に襲われることになるかは、これ等の定義では判明しません。一般に、日本の病院では『手術は完璧に出来ました』とか、『出来ることは全てやりました』とかの説明はしてくれますが、何故そのような病状に至ったか、その原因は教えてくれません。そこでこの機会に、少し古い話ですが、小生がフィリピン、ケソン市の聖ロカ病院(Saint Luke's Medical Center)での健康診断から病の発見、処置に至った経験を紹介させていただきます。

病名は僧房弁腱索断裂による僧帽弁閉鎖不全(MVP)というものです。心臓の中は実に良くできたもので、大まかに2つの心房と心室に構造が分かれ、左心房の上部から発するパルス電気信号を電気・生理化学的に変換する事によりタイミングをとって各心房心室の収縮リズムをとり、その間を弁が塞ぐ事で、ポンプとして肺から酸素を取り入れて脳や身体全体に血液を送っています。これらの弁は、実はふわふわの葉っぱの様な構造で、その先についた複数の腱策がこれを引っ張るストッパーの役割を果たしています。この腱索によって弁が閉塞状態になっても、単に塞ぐのではなく、赤血球や白血球を壊さない様に微妙に閉じる様になっています。

これは医学会の統計データから明らかにされたそうですが、我々の世代が少年期にあった時にある種の風邪が大流行したようで、これが高熱を發するリュマチ熱（リュウマチとは違います）を起こし、関節炎、急性腎炎等も発症したそうです。思えば小生も中学1年の頃までに麻疹を含めて一連の病気を経験していますが、具体的に何時、どれが該当するかは記憶の外です。これらの高熱を發した病は1週間程度で回復をしたのですが、説によればそのウイルスや細菌の残骸は石灰化した状態で残るそうです。恐ろしいのは、これが僧房弁や三尖弁の先に残って石灰化し、硬い組織となって弁の構造に影響して柔軟性を無くし、これがナイフのようになって腱索を削って断裂を發生させ、結果的に閉鎖不全を起こし、急性心不全で死に至るという事です。その頃日本で受けた一日定期健診では問題が無いとされていましたが、幸いにも現地の会社の取締役の義務としての一泊2日の定期健康診断で、この症状がマニラのセント・ルークス病院の健診で発見され、急遽手術ということになりました。担当のハートセンター長からは、『貴兄には3つの死に方がある。1つ目は体中に血液を送る左心室の僧帽弁が閉じることが出来ないので、左心室の強力なポンプ力が肺への圧力となって肺が爆発、大出血となるものであり、落命には数分以上を必要とし、窒息死であることからかなり苦しむ。2つ目は心臓内の血流が渦を起こし血栓が多く発生して脳に行き、脳血栓を發症する。この場合急死とはならないが周囲に多大な負担をかけることになる。3つ目には、心臓のポンプ作用が不十分であることから体中から心臓に更なる働きが要求され、その結果心臓自体が疲労・爆発する場合がある。この場合数秒で死に至るので、最も幸運な死に方と言えるが、貴方には選択権が無い。唯一の解決策は緊急に手術を受けることだ。』との強力な説得を得て、緊急的に手術を受けることとしました。当時の技術としては正中切開(ネクタイ様の胸骨を取り出して、大きなカンシで胸を開いて心臓を取り出して切開)をして、血液を満たした人工心肺装置で血液循環を置き換えて点滴注射と冷却により心臓を止めて心臓の内部の手術へ進む方法でした。幸い現地の方々が多数献血に駆けつけてくれて準備が整いましたが、日本側へ問い合わせたところ、当時血液製剤によるエイズの流行に対応する為に輸血をしなくても良い可能性をもたらす自己血手術が開発され、これが丁度安定化した、予後の種々の障害を勘案すれば自己血手術に越したことは無いと言う事で、日本で手術を受ける事としました。JALには内緒で脈拍と血圧を下げる処置をして心臓への負荷を最小にして帰邦、女子医大に入院して、事なきを得ました。この手術は8時間程を要しましたが、術直後に酷い喉の渴きを覚えて目覚め、気管に挿入された器具によって話ができない中、必死で娘の手を握ってミズ・ミズと指で書いて訴えましたが、『麻酔を追加するので本人は何も覚えていない筈』との医師の言葉に絶望した覚えがあります。手術前の説明で、人工心肺に希釈した自己血を満たす為、術後に水分を抜くので喉が渴いた感じがするが、これは正常との説明が欲しかったとつくづく思いました。

話をマニラに戻しますが、日本での検診と違い、彼の地では一般健診後にトレッドミルで心電図計測しながら角度を上げて全力疾走させて測定します。小生の場合、その際に初めて異常が発見され、急遽心エコーで逆流が確認、更に食道エコーで僧帽弁が閉じずにその腱索が踊っていることも見せてくれました。同世代の皆様も確率的に同様な危険性を持たれているように思います。日本でも負荷をかけた心電図健診は医師に要求すれば可能だそうですので、一度お試しください。

<事務局注>ご寄稿への感想、意見、感動などございましたら、下記サイトのコメントボタンよりご記入いただければ幸いです。

<https://ictov.jimdo.com/home/特別寄稿/>

特別寄稿

当会特別顧問の石井様から、「呆け防止のためにブログを開始した」との連絡があり、ご本人のご了解を得て、いくつかの日記を下記のとおり転載いたします。

<https://blog.goo.ne.jp/iwatukiishiikoh>

徒然日記(4)：シニア海外協力隊顛末記(3)

当会特別顧問 石井 孝

5-2 試行授業

名通訳

インターネットに関しては、色々な社会科学的説明や技術的な解説書が山ほど出ているが、出来る限り受け売りを避け、インターネットの必然性、技術的な特徴、インターネットの光と陰と云った点について、極力筆者自身の解釈で話をした。

講義は英語で行い、Chollana さんに通訳を頼んだ。最初ほんの少しの間、呼吸が合わなかったが直ぐに慣れた。彼女は全体の雰囲気を感じ、或る時は丁寧に、皆見当がついていると観ると訳しもせず、それは絶妙な通訳であった。そして、更に感心したことは、2 回目の講義以降、専門用語を完璧に通訳してくれた。また、彼女はこの経験を通し、情報技術 (IT) とそれが社会に与えるインパクトについて強い関心を覚えたようであった。

ここで講義内容の詳細を述べる積もりはないが、インターネットに象徴される IT 技術と、開発途上国、特にタイのような中進国との関わりについて考えてみたい。実は、この辺りが、インターネットの講義にこだわった理由の一つである。

中進国と工業化

従来、中進国の工業化は通常、ハードウェアに関連する製造業からスタートしている。日本の場合もそうであった。半世紀以上の年月をかけ、材料、部品の開発から複雑なシステムの設計、製造、品質管理に至るトータルな物造り技術の体系を確立した。我国の場合は、戦後の復興という差し迫った環境条件と、着実に積み重ねが出来る国民性が相乗的に働いて好結果を招いたものと思うが、こう云ったケースは稀で、大抵の場合は先進諸国の下請け工場化程度に止まっているのが現実である。

ところで、ソフトウェア開発をターゲットに工業化を目指したインドの場合はどうであろう。20 年足らずの期間で、彼等はソフト大国に仲間入りを果たした。

ソフトとハードの違いは、一口で云うと、ソフトは、全てが人の作ったもので、全体が人工的論理で構成され、支配されている。しかしながら、ハードの方は、神が創造した物質が全てのベースになるため、人知の及ばないところが多い。このため、ハード開発には物理、化学と云った基礎科学から匠の技と言われる経験的スキルに至る極めて幅広い技術的能力が必要となる。一方、ソフト開発の場合は、論理的思考能力さえあれば、何でも出来る可能性がある。このため設備投資も少なく済む。また、説明困難な匠の技などは一切ない、新しい技法は全て論理的に説明出来るので、基礎さえ出来ておれば



誰にでも理解出来、利用可能である。こう云った点から、ソフト産業は、後発者優位の可能性をも秘めている。中進国はより一層ソフトウェアに関心を向けるべきなのである。

21世紀は、コンピューターの世紀である。20世紀中に幼年期をすませたコンピューターはお互いに手を結びネットワークを構成して、世の中に新しいコンピューターカルチャーを創ろうとしている。その始まりがインターネットである。言うまでも無いが、そこにおける主役はソフトウェアに他ならない。ネットワークを動かすのも、またネットワークを利活用するのもソフトウェアであり、新しい文化はソフトウェアによって創造される。

講義の反応

以上のような想いを胸に、Chollanaさんのアシストによる講義結果は概ね満足出来るものであった。校長が、開講時に趣旨を丁寧に話してくれた。特に、教官クラスは熱心に聞いてくれ、質問も的を射たものが多かった。

生徒の方は一苦勞であった。人数の多いクラスでは、静かにしているのは最初の30分ぐらいで、ざわつき出す。初めは私語を行っている連中に質問をして牽制など注意もしたが効果はなかった。途中から、熱心な生徒を前の方に集め、彼等中心に授業を行った。

このグループには宿題も出した。数日で出来るだろうと思ったが、余裕をみて一週間の時間を与えた。次ぎの週、期待して授業に出ると、宿題を提出する者は皆無である。どうしたのかと聞くと、今やっているから来週は大丈夫と言う。しかし次の週も、また次の週も同じ事の繰返し、一ヶ月で諦めた。すると三ヶ月近く経ってから、宿題が出来あがってプレゼンテーションをするから来てくれと言ってきた。こちらは、何を出したかも忘れてしまったが、出て行ってみると、オーバーヘッドプロジェクターを使った解答は、大変良く出来ていた。思わず嬉しくなった。三ヶ月は長過ぎたが、素晴らしい解答だったと大いに褒めた。

この国では、こんな風にとてつもなく待たされることをよく経験する。時間の物差しが違ってしまうとそれまでだが、「貧困はあっても、飢餓は無い」と云うお国柄、あくせくする必要が全く無いのであろう。彼等を信じて待つ、これがこの国で仕事をして行く上で、ポイントの一つかもしれないと思った。

輪講形式の授業の方は、上手く行かなかった。実用的なテキストを選び、若い良く出来る教官をチューターにして、手を尽くしたのであるが、いざ始めてみると、先ず英語の読解で難航し、内容の理解も捗々しく行かなかった。曲りなりにも一通りは終えたが、職業高専の現レベルでは、輪講はとても無理のようである。今後は、何か別の方法を考えなくてはならない。

授業の試行は、改めて職業高専の抱える問題点を再確認するかたちになったが、大変良く出来る生徒や、熱心な若い教官が居る事も分かった。能力別クラスの導入や優秀な教官を巻き込んだ課外授業の設定など色々工夫すると、面白い結果が期待出来るのではないかと思った。また、教官に対する授業は、特に若い教官に大分刺激を与えたようである。数人の教官が、IT関係の勉強をするため留学をしたいと言って、早速相談に訪れた。早速、3名の俊英達がアメリカや国内のキングモンクット工科大学のマスターコースでIT関係の勉強を始めた。

5-3 コンピューター実習室

草の根無償援助

コンピューター実習室作りについては、校長が大変乗り気になった。授業で話したインターネットを実際体験させるだけでなく、出来れば校内 LAN (Local Area Network) を造り、図書館の検索管理ぐらいまでやってみたいと言い出した。しかし、先立つものが無い。

外務省の草の根無償援助が受けられないものかと考えた。早速、大使館の担当官に当たってみた。担当官の話では、元来、貧困層を対象にした援助なので難しいが、前例等を調べ解答してくれることになった。期待して待ったが、結局、職業高専は貧困層に当たらないと云うことで却下された。貧困層の救済、エリート層に対する支援、これらは大変結構なことである。しかし、国を支え、国の基盤となるその国の中堅層に対する支援についても良く考えて見る必要がある。

我々が戦後の復興期にアメリカから受けた援助を反芻する時、中堅層の心の底に残る援助が幅広い精神的な親米効果を高め、その後如何に大きな成果を収めて来たかを考えさせられるのである。

完成までのあれこれ

以上のような経緯もあって、結局、校長が持っている虎の子の予算 100 万バーツを頼りに、自前で出来る範囲の中で実習室を作ることにした。大まかな設計書を作り、これを基に校長が業者を募り見積もりを要請した。4 社の応募があったが、各社から色々意見を聴き、校長が学校関係に実績のあるところに決めた。その後、三ヶ月間ぐらい掛け、詳細な設計を完了した。この間、業者には大分無理も聞いて貰った。

そして、いざ工事開始の段階で意外な問題に遭遇した。電話会社が回線増設は不可能であると言ってきた。バンコク市内と云っても、この辺りの郊外になると、インフラが貧弱で空き回線が無く、急にケーブルの増設など不可能だと言うのである。申し込んでもなかなかつかない 30 年ぐらい前の日本の電話事情を思い起こした。

仕方が無いので、取り敢えずパソコンだけを搬入して貰い、先にコンピューター教室を整備し、回線増設は催促を続けることにした。回線開通の方は色々つてを求めて手を尽くしたが捗々しくなく、任期中の完成は無理かなと諦め掛けていたところ、任期残り半年の時点で漸く回線が繋がり、何とか赴任中に新しい実習環境への第一歩を踏み出すことが出来た。筆者帰国時には、生徒の授業だけでなく、近隣高専の教官訓練などで教室はフル稼働になった。開通の経緯を調べてみると、先に述べた宿題と同じで、関係する人達は皆それなりに努力してくれたのであるが、時間の物差しの違いで、我々には如何にもまだるっこく感じられたのである。(次号に続く)

<事務局注>ご寄稿への感想、意見、感動などございましたら、下記サイトのコメントボタンよりご記入いただければ幸いです。

<https://ictov.jimdo.com/home/特別寄稿/>

三笠宮崇仁親王と俳句

日本ベンチャーネット社長 エッセイスト 田上 智



改元で平成から令和に改まり、日本中が「何か良いことありそうなの」という気分が満ちている。国民全体が皇室というものに注目が集まっている。三年ほど前に百歳で亡くなったが、軍人や貴族院議員という公職の他、文才にも恵まれた三笠宮崇仁親王が俳句をよくたしなんでいたことはよく知られている。

自作の句集「夕虹」を探し回ったがついに見つからず、ようやく、ネットで数句探し当てた。

- ・短日や戻れば我が家灯の点り
- ・女子高の卒業証書見せに孫

ほのぼのとした好々爺の表情がしのばれる句である。

戦時俳句としては、

- ・枯野ゆく匍匐（ほふく）前進せし むかし
- ・残雪の中の演習忘れ得ず

崇仁親王は、学習院初等科・中等科を経て昭和11年（1936年）に陸軍士官学校を卒業、のちに陸軍大学も出て少佐で終戦を迎えた。この時代、ノブレス・オブリージュの名のもと皇族男子は軍務につくことになっていたが、近衛師団など内地勤務が主の中、「若杉参謀」として中国戦線の支那派遣軍に送られた。現在のイギリスでも、第二次世界大戦では、エリザベス女王も従軍し、近年、フォークランド紛争でもアンドリュー王子も同じく従軍しており、このノブレス・オブリージュの原則は今でも英国王室では生きている。

中国戦線では、陸軍の将校だった我が父とも出会い、「今何時かな？」と直接時間を尋ねられたというエピソードを父の生前よく聞かされた。

俳句については、星野立子に師事、2012年には、当時、俳人協会会長だった鷹羽狩行さんの勧めで句集「夕虹」を出版している。中国語やヘブライ語も流ちょうに話し、社団法人日本オリエント学会の設立にも尽力した。

今は若干下火になったが、女系天皇に関する意見では、かなり進歩的なお考えを持っていた。改元特番の中でNHKが報じた報道では次のような事実がある。「新憲法が発布された日に三笠宮崇仁親王が皇室典範の草稿を審議していた枢密院に提出した皇室典範改正を巡る意見書の中で『今や婦人代議士も出るし、将来、女の大臣が出るのは必定であって、その時代になれば今一度、女帝の問題も再検討するのは当然だ』と」。

昭和20年（1945年）終戦の年、複雑多岐であった陸軍飛行部隊を一元管理すべく航空総軍司令部が置かれたが、この航空総軍第三課の参謀に崇仁親王少佐が任命され、奈良の航空総軍司令部・戦闘指令に赴く予定であった。奇しくもこの指令所の建設にあたったのが、航空総軍第十九地下施設隊長を命ぜられた我が父であった。完成を待たずに終戦を迎えたが、何か不思議な縁を感じた。（了）

テレビドラマ「陸王」を観て

日本ベンチャーネット社長 エッセイスト 田上 智

銀行員出身の作家・池井戸潤のテレビドラマ「陸王」を観て涙が止まらなかった。メーカーの経営者の視点でこのドラマを見ると本当に身につまされる場面が多すぎた。舞台は埼玉県行田市の足袋屋。100年の老舗だが、何せ足袋製造は斜陽産業。このままでは、衰退するばかりだと、四代目の社長は、隣接する事業領域だが、異業種のランニングシューズに挑む。メーカーの難しさは、小規模な注文生産では問題はないが、市場をにらんでコスト削減である程度のロットの大量生産を目指す場合は難しい。需要に追いつかないとお得意先から見放され、見込み違いでは在庫の山となる。すでに製造停止のぼろぼろの縫製のミシンをだましだまし使い、廃業した同業の工場から交換用の部品を調達する場面は思わず胸が痛くなった。

「半沢直樹」で一世を風靡した池井戸潤が挑んだのは、斜陽産業のモノづくりの会社だ。モノづくりは日本の社会では、尊敬される。日本は基本的に職人を一目置く。資源がほとんどない国土で対抗できるのは、頭と腕だけだからだ。経団連の会長は例外なくモノづくりの会社出身者である。

舞台となった行田市という街にも思い出がある。実父がお世話になった、H自動車の関連会社の本社と工場がある。出席した株主総会で「父が御社に職を得たおかげで大学を出た」と、ひな壇の役員連に対し、涙を流しながら感謝の言葉を送った。総会が終わった後、出席していた年配の元従業員の人物が「一緒に働いていたが、お父さんは温厚な人だった」と声を掛けてくれた。

登場する銀行員がいかにも保守的で典型的な融資担当で、思わずうなずく。事業が拡大して、途中で地銀からメガバンクに乗り換えるのだが、取引銀行がたった一行だけというのは通常無い。例えば、どんな小規模でも3～4行あり、信用金庫、地銀、メガバンクとダイバシティーでリスク分散するのが普通だからだ。ただ、方針として「晴れの日には傘を貸してくれるが雨の日には傘を奪ってゆく」というのは、金融機関のスタンダードな姿勢だ。只、中には例外もあって、貸した以上絶対に潰さないというS信金やT地銀もある。昨今地銀の経営は厳しい。収益率が悪化している。対応策として、地域の地銀が情報交換のネットワークを構築しているところも出てきた。

アグレッシブな四代目社長と、銀行担当でもあり保守的な経理担当常務の確執も面白い。常に「いけいけどんどん」だけでは会社はつぶれるが、時代の変化を読み取らないと生き延びてはいけない。

M&Aの話も最終段階で出てくるが、単に会社を大きくさせてゆくためにグループの膨張を狙うバイヤーとあくまで企業の成長をねらうオーナー経営者とのバトルも見ものだった。この膨張か成長かでずいぶん経営方針も変わってくるのだ。

テレビドラマ「陸王」は平均視聴率16%、最終回は20.6%で、地域の経済効果は3か月間で10億円以上となったという。劇中の挿入歌で女性ボーカルグループ Little Glee Monster の謳う「Jupiter」もなかなか良かった。(完)

借景を香華としての冬の墓所

日本ベンダーネット社長 エッセイスト 田上 智

東日本大震災のあと、1年ほどして作家森村誠一が、宮城県石巻で詠んだ句である。森村誠一といえば、夥しいほどの推理小説を書く傍ら、俳句を愛する作家でもあることも知られている。後述するが角川春樹と出会ったことが、俳句を作るきっかけとなった。小説と俳句との関係については、「小説はその世界を拡大し膨らませていくが、俳句は情景を徹底的に凝結させる。異なる表現を知ったことが、小説を書く時に役立っている」と。

森村誠一の2時間余りの講演を、感動を以て聴いた事があった。自分も講演をする機会が多いが、逆にいわゆる作家や講師などの座談のプロの話も聞くことも多く、参考になる。森村氏は質問なしで2時間の講演をこなすのに、推理作家らしく膨大なメモを準備しており、6時間分の内容があると説明していた。タイトルは「人生の証明になる小説」で、角川春樹との出会いからスタートした。

ある時、角川春樹が、突然、荒巻鮭を背にして、新進作家森村を訪れ「人生の証明になるような小説」を書いてほしいと頼まれたという。人生の証明になる、それ以上でもそれ以下でもないという。それだけだったそうだ。ここからは、小説作法の話でも自分にとって非常に興味深く聴いた。舞台は終戦直後の東京、ニューヨークそして群馬だ。

のちに、「人間の証明」という題名でベストセラーとなり、角川春樹のプロデュースで映画化もされたが、この小説には2つの大きなファクターがあり、一つは戦争の悲惨さと他の要素は「麦わら帽子」に象徴される母と子との情愛である。まず、森村氏自身、少年時代、出身地熊谷で終戦時当日の大空襲を経験、その悲惨な光景が目に焼き付いている。もう一つは、学生時代ハイキングに凝っていて、就職もままならぬ間の青山学院大学4年生の時に行った霧積高原でのエピソードである。

霧積高原では、金湯館（きんとうかん）という伊藤博文、与謝野晶子といった名だたる政治家や作家が泊まったことのある由緒ある旅館だが、早朝その宿が作ってくれた弁当の包み紙に使われたのが、西条八十の詩が印刷されたもので、「帽子」だった。

母さん、僕あの帽子、どうしたでせうね？
ええ、夏、碓氷から霧積へゆくみちで、
谷底へ落したあの麦わら帽子ですよ。
母さん、あれは好きな帽子でしたよ、
僕はあのときずいぶんくやしかった、
だけど、いきなり風が吹いてきたもんだから。

実際、映画化されたものを見ると、くるくると回転しながら赤いリボンのついた女ものの麦わら帽子が谷底に落ちてゆく画像がクライマックスで使われている。

表題の句は、地震で倒れた墓石の向こうに、借景として、工場の煙突からの煙がたなびいている。それがあたかも、香華すなわち仏前の香と華を象徴していると。（完）

井原西鶴の俳句と日本永代蔵

日本ベンチャーネット社長 エッセイスト 田上 智

西鶴と言えば、東の芭蕉、西の西鶴と言われた俳句作家だが、むしろ「世間胸算用」「日本永代蔵」などの商人世界を描いた経済小説のパイオニアとしての名声の方が通りがいい。

- ・大晦日定なき世の定かな
- ・茶を運ぶ人形の車はたらきて
- ・辻駕籠や雲に乗り行く花の山

だいぶ、芭蕉とは作風が異なる。自然を描くというより、なにかこう人間の匂いがぷんぷんとするような、浮世により近い感じがする。

戦後、昭和30年代「落日燃ゆ」などの代表作で知られる城山三郎を「経済小説の祖」と定義するむきが一般的だ。日本永代蔵は、「永遠に続く堅固な蔵」を示すが、30編の短編小説集である。その30のうち、どうやって金持ちに至ったかを表す成功談がおよそ三分の二、残りがどう失敗し、倒産にいたったかの教訓的なものである。

なかでも、突出した成功例で現在にもいたる旧財閥三井を取り上げている。松阪商人をルーツに持つ三井高利が江戸に出て、越後屋三井呉服店を創業、その頃、武士相手で一反を単位として、つけ払いの訪問販売を改め、店前売り、定価現金、切り売りをモットーに庶民にまでマーケットセグメントを広げ大成功。さらに、①金が金を生む両替に力点を置き②長崎を通じる貿易にまで家訓で言及、のちこれが維新後、三井銀行の創設や、三井物産の設立につながっている。

三井銀行は、三野村利左エ門という、無学な金平糖売りから、両替商に転身した人物の創業によるものである。幕末の勘定奉行小栗上野介への奉公人から四十六歳でその才覚を買われ三井に中途入社した。一方、三井物産初代社長は、益田孝という旧幕臣で父と共に遣欧使節に参加したり、維新政府の大蔵官僚の経験を持ち、英語が堪能で、若干二十八歳で三井物産を創設してしまうという、スタートはともかくエリート街道まっしぐらの人物である。この無学な苦労人と英語に堪能で茶や俳句の趣味もあった教養人という対照的な二人の人物により三井財閥は作られたと言っても過言ではない。

益田孝は、茶道については「鈍翁」という号も持つほどの数寄者だが、俳句も多く残している。さらには、語学については、「ビジネスもさることながら、雑談が出来るくらい外国語を学べ」、「もし家が裕福なら留学せよ」と言っている。

「小説三井物産初代社長」を書いた小島直紀の「出世を急がぬ男たち」のなかで、グローバルな財閥という意味では三井とよく似た「ロスチャイルド」を取り上げていて、その相違点と類似点を述べている。持論としては類似点ばかりだが、端的な類似点は「富豪」による「統制」と「同族」の団結だ。時代背景をよくにらんで、金融資本家から産業資本家への転身をうまく図ったという点でも酷似している。

大晦日、西鶴の句から思わず、三井家やロスチャイルド財閥にまで思いを馳せた。
(18.12.31 完)

<事務局注>ご寄稿への感想、意見、感動などございましたら、下記サイトのコメントボタンよりご記入いただければ幸いです。

<https://ictov.jimdo.com/home/海外グラフィティ/>

スペイン・モロッコ俳句紀行(6)

元 JICA シニアボランティア

現千葉県 JICA シニアボランティアの会
北垣 勝之

アガディールや地震が招く新天地 災害に人心強固復興力

大西洋岸のリゾート都市アガディールを訪れる。きっかけは海外「こんなところに日本人」のTV番組で、セイジなる男が海浜で焼き魚を美味そうに食べているのを観たのが縁。以前、北に170kmの港町エッサウィラをマラケシュから日帰りしたことはあるが、今度はじっくり海辺で1泊して大西洋のサンセットを眺め、海水に触れてこようと企む。晴天の続く中、前者は彼方の雲に遮られ実現できなかったが、後者は翌朝の海浜散策のおり水際で手を洗うことができた。湘南海岸より遙かに広い砂浜では裸足の子供たちがサッカーに興じていた。とにかく土地勘が全然ないところ、新旧の情報が交錯して街がどう変化しているのかも掴めない。たまたま拾ったタクシー、まずは街が一望できるカスバに行こうと料金を尋ねると、ホテルと往復で80DHだと言う。ホテルでは丘の下まで40DH位と聞いていたので即座にOKし出発、旧市街を走りながら運転手の説明を聞いていると、盛んに「あの建物はオリジナルで、その隣のビルは新しい」と言う。何を基準に新旧の建築物を指しているのだろうか。私には同じように見える。話を聞くうちに「ジェンザイ」という言葉が出た。「あっ、地震のことか」。



ヨルダン時代、現地人とアラビア語混じりで地震国日本の話をしたことがある。その時の単語である。運転手の英語発音では分からなかったが、これで一気にアガディールの歴史が蘇る。当地は近年大きな地震に3回見舞われたが、最後の1960年の地震で、16世紀以降ポルトガル人が築いてきた町の建物が大半崩壊してしまったのだ。これから行く丘の上のカスバ(要塞)も城壁と砲台と城門の一部を残して瓦礫と化す。灰燼に帰した旧街区のほとんどは残った建物と入り混じった状態で再建された。かつ最近のアガディールは郊外へと建設の波がうねる。かくしてモロッコの他都市とは異なり、道路整備、リゾート開発、公園など斬新的都市改革が行われてきた。ゴルフ場も4か所あるそう。これはマラケシュと同数である。ヨーロッパ中からリゾート目当ての客がやってくる。

この町の復興に加担したもう一つの理由は殖産興業である。カナリア諸島(スペイン領)にも近く豊かな漁業資源に恵まれ、魚貝類の水揚げはモロッコでも1、2を争う漁港を有し、海産物と缶詰生産の盛んな漁業の町である。一方、内陸に目を転じればアルガンの樹林が延々と広がる。最近では本家のエッサウィラを凌ぐほどアルガンオイルの産出が旺盛である。モロッコでもこの地方でしか抽出できない特産品、用途はコスメから食用油、入浴剤へと種類が増えている。100%純正のアルガンオイルを求めて販売店を覗くと、製作の実演や使用法の説明に販売員が熱弁を振るう。「これを一味どうですか」とスプーンに乗せた精力剤まで試食させられる。本当に効くかどうか、一匙くらいじゃピンとこない。値段はかなりの幅があり純正品は高い。それもその筈1kgの実から1mlのオイルしか抽出されない。製法の機械化が難しく人の手で作成される。それが今やモロッコを

代表する産品となり観光客は土産にこぞって買い求める。観光開発とこれらの産業を梃子としてアガディールは見事震災から復興したのである。日本も同じこと、禍を転じて福となそう。

乗り継いで出たところ勝負モロッコ旅 果報者ミカンの季節マンダリン



ツアーを除きモロッコの交通手段はすべて現地で手配する。スペインでもバスやフェリーは現地決済、本邦出発前に予約しておかなくても問題なし。いわゆる旅行シーズンではないからである。でもモロッコではバスしかない地域移動のところが多い。多少の不安もあったので極力前日までの切符購入を心掛けた。バス交通網は数年前と比べ格段に良くなった感じだ。スープラトゥール(ONCF系)とCTM(国営)の主要2社の外、民営バス便がある。ダイヤもきっちり守られ、新しい車両が増え事故や故障が少なくな

ったようだ。移動がスムーズに行かないと全予約のホテルに支障が出るので心配したが、2区間乗車の鉄道も予定通りの運行で、なべてスケジュール通りの行動がとれた。僥倖である。モロッコで一番うれしかったのは、ミカンの季節と合致したこと。特にマンダリン・オレンジの美味しさは最高で行く先々で買い食いする。値段は1kgあたり2~12DH(25~150円)と幅があったがそれでも安い。小さいので数は20~30個位か、皮が薄いので食べやすい。スペインではバレンシア・オレンジのシーズン、これも賞味したが美味い。柑橘類は日本のお家芸と思っていたが、昨今の国産ミカンの味は落ちる。見栄えはしても味にこくがない。マンダリン・オレンジの食い溜めをしてモロッコを後にする。

ISの地雷を跨ぐ渡航かな 地中海飛んで安心カタール機

いつも飛行機がどのルートを決めるか興味津々、往路は成田→朝鮮半島横断→北京→天山南路(タリム盆地北側)→ペシャワール→イラン南→ドバイ→ドーハ(トランジット後)→イラク東→トルコ黒海側→サルデーニャ島→バルセロナ→マドリッドと飛ぶ。帰路はマラケシュ→アルジェ→チュニス→マルタ→地中海→アレクサンドリア→シャルルイッシュェイク→ドーハ(トランジット後)→ドバイ→コルカタ→チッタゴン→上海→東シナ海→九州から日本縦断→羽田である。中東地域は恰も地雷原みたいなもの、IS等の紛争地点を巧みに避けて飛行する。チュニジア、エジプトなど地中海アフリカ側も要注意圏だが、中東系航空会社機は飛び慣れているようだ。

機内バニョ小便^{じい} 爺^{ばあ}に糞婆

今回のフライトでは、いずれも機体中段の後部席を占める。早めの降機とトイレが近くて都合よからうと考えてのこと。だが食事後のトイレラッシュ時になると、順番待ちの人列ができて煩わしい。特に同類の年寄り連中がぞろぞろやってくる。どうせなら機体最後尾の座席の方が人も少なく気楽であると再認識する。バニョ(baño)は西語、ここではトイレの意。

トランジットドーハのワインで飲み納め

ドーハのラウンジは飲み過ぎの元凶、機内サービスより上等のワインが置いてある。それをチビリチビリやりながら5時間のトランジット待ち時間を潰す。ヨーロッパへの長旅もそろそろ卒業しなければと反省する。ラウンジ利用もこれが最後か、身体に疲労がくるようになったら終わりだ。しかし飲んでいると仮眠どころか疲れが取れてくる。さあもう一仕事やろう。お休みは機内ですればよい。日本まで約10時間のフライトが待っている。

旅の果て東京夜景5万ドル

日付線越えてオアシス我が家かな
ふと目覚めここはカスバか我が寝床

久しぶりの東京の夜景、少々しょぼく見て見える。香港を100万ドルとしたら、東京は5万ドルくらいか。全体に明るいことは認めるが、光にメリハリがない。羽田には愛犬も出迎えに来てくれた。半月ぶりの再開に尻尾の振りが止まらない。モロッコは猫だらけだったがスペインは犬の国、それでも愛犬と同じ犬種には出会わなかった。「うちの可愛いルルちゃんは、色は白くて小さくて、粒らな瞳のイタグレっ子、ほんとにヤンチャなワンこだよ」。明日からまた犬散歩に励まなければ、日付の変わったところで寝床にもぐる。夜中にふと目が覚める。ここは地の果てアルジェリアかな、いや違う。カスバかもしれない。「カスバの女」の歌詞三番にモロッコが出てくる。「貴男も妾も買われた命 恋してみたとて一夜の火花 明日はチュニスかモロッコか 泣いて手を振るうしろ影 外人部隊の白い服」、退廃的ムード漂う歌である。何人かの骨太声の女性歌手が歌っているが、カサブランカにはそんな雰囲気は少しはあったかな。でも何処のカスバも艶っぽい感じはしない。今は赤茶けた廃墟の要塞跡である。ましてやイスラム圏とあっては酒や女は似合わない。作詞家「大高ひさを」の思い込みであろう。自己満足の創造アーティストは、歴史の事実とはかけ離れて勝手に歌詞を作る。我もまた虚実の間で旅の夢を見る。

アッラーの加護MM計画無事終了

あな楽し旅はお伽の飛遊かな

家内から冒険旅行と酷評された旅も、なんとか無事に終わった。天候にも恵まれ、たくさんの収穫とともに帰国できたことは、神様(キリストとアッラー)並びに仏様のお陰である。今回のゲートインはマドリッド(Madrid)、ゲートアウトはマラケシュ(Marrakech)、称してMM作戦、2カ国に亘る旅である。結果として、身心のヘルスチェック、忘れかけた語学の喚起、今まで見残してきた名所旧跡の踏査、人々との出会い、新しい疑問と課題の発見など、まずまずの成果である。旅は無茶修行、その目的は達成された。非日常の世界を彷徨し、未知なる領域に思考を重ねることは楽しい。仮想現実(Virtual Reality)という言葉はあるが、私流に言うならば「飛遊」である。帰国後も旅の反芻と追究は続く。(完)

<事務局注>ご寄稿への感想、意見、感動などございましたら、下記サイトのコメントボタンよりご記入いただければ幸いです。

<https://ictov.jimdo.com/home/海外便り/>

談話会の話、あれこれ

第 39 回海外情報談話会模様

事務局

第 39 回海外情報談話会が 2019 年 5 月 22 日 (水)15 時～17 時、(一財)海外通信・放送コンサルティング協力(JTEC)及び Web TV 会議室において開催された。講師は栗崎 由子様(ヨーロッパ・ジャパン・ダイナミクス 代表)、演題は「小さな多文化共生大国スイスから 日本のこれからを考える」であった。固定観念を打破するためテーブルをランダムに配置し、多文化共生とは何か、スイスの多文化共生の根本思想は何か、日本の多文化共生社会はどうありたいかなど、テーブルごとの議論と発表を数回交えながら、幅広くかつ熱く話され、質疑応答も活発であった。



以下にいくつかの話題を列挙する。

- ・スイスで就職した SITA は、世界の航空会社のホストコンピューター間を接続しており、国連加盟 196 カ国より多い 230+ の国・地域をカバーしている。
- ・世界各国と対応しながら、新聞にない出来事が世の中には多いことを知った。
- ・多文化共生とは、幕の内弁当のようなものだ。
- ・日本の大きさは、エストニアからスペインまでヨーロッパを縦断するほど大きいですが、それほど日本が大きいことを知らない日本人が多い。
- ・スイスの人口は日本の 6.7%、面積は 10.1% であるが、一人あたり GDP は 227.1% である。
- ・スイスは 1 つの連邦と 26 の州で構成され、27 の憲法がある。
- ・スイスの公用語はドイツ語、フランス語、イタリア語、ロマンシュ語の 4 つある。パソコンのキーボードも各言語に対応できるように、ダイバシティーを配慮している。
- ・行政機関の事務処理もダイバシティーを考慮し、かつ簡便化されている。国境通過は簡単にできる。



- ・スイスの人口の 4 分の 1 は外国人であり、その内訳は欧州出身者が 81.5% を占めている。子どもの頃から外国出身者と過ごし、皆スイス人としてのクラスメートである。

・チューリッヒ工科大学やローザンヌ工科大学の外国人比率は博士課程 70～80%、修士課程 40～50%と非常に高い。このような多様性社会が、7年連続でイノベーション世界一になる源泉だろう。

・職場もダイバシティーそのものであり、英独仏語を話す人は珍しくない。個人の仕事の責任範囲が明確であり、自分の仕事が終了すると帰宅する。重国籍は合法である。

質疑応答として、スイスの医療システム、生産性、本人証明方法、就職など、多数の参加者から活発に提起され、テーブルごとのディスカッション及び発表とともに、真に“談話”会らしい双方向の刺激的なものとなった。

<事務局注>講演資料は、講師のご厚意により、下記サイトからダウンロードすることができます。 <https://ictov.jimdo.com/home/海外情報談話会/>

また、前回講師のご厚意により、著書「CxO(経営層)のための情報セキュリティ」(書店では売り切れ) 20冊のご提供がありましたので、今回の海外情報談話会で希望者(先着順)に配布いたしました。

お知らせ

第 40 回海外情報談話会開催のご案内

事務局

ICT 海外ボランティア会(ICTOV)による第 40 回海外情報談話会を下記のとおり開催いたしますので、ご多忙とは存じますが、奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

1. 日時：2019 年 7 月 24 日(水) 15 時～17 時
2. 場所：(一財)海外通信・放送コンサルティング協力(JTEC)及び Web TV 会議室
東京都品川区西五反田 8-1-14 最勝(さいしょう)ビル 7 階
JR 五反田駅から徒歩約 5 分
<http://www.jtec.or.jp/about/access.html>
3. 講師：大野 邦夫様(株式会社モナビ IT コンサルティング研究部門長、元ドコモ・システムズテクニカルセンター主席技師)
4. 演題：「女性起業家による被災地復興への挑戦」
5. 参加費：無料(会員制ではなく、どなたでも参加できます)
6. 定員(先着順)：JTEC 会場 30 名、Web TV 会議室 100 名
7. 申込方法：参加ご希望の方は、下記連絡先にご氏名及び談話会参加希望の旨をご連絡ください。なお、Web TV 会議室への参加ご希望の方はその旨ご記載ください。
<連絡先> ICTOV 事務局 info.ictov@network.email.ne.jp

☆東日本大震災後に立ち上がった女性起業家達の分析、類似した環境下で復興したスペインとの交流、ハーバードビジネススクールからの提案などについて、初心者にもわかりやすく、随時質問できる雰囲気の中で、気軽に楽しく談話しながら、学び、考える機会です。乞うご期待！

(注) Web TV 会議室への参加方法は次のとおりです。

- ① 次のサイトで初回のみ、ミーティング用 Zoom クライアント(サイトの一番上にあるもの)をダウンロードし、インストールする(無料)。それ以上の操作(ID 入力等)は不要です。なお、Zoom はクラウドベースの Web TV 会議室システムであり、パソコン(カメラ・マイク付)、スマホ、タブレットのいずれでも可能です。

<https://zoom.us/download>

- ② Web TV 会議室の案内が海外情報談話会開始 5 分前までにメールで届くので、メールで指定された Web TV 会議室に入室する。



編集後記(編集者から一言)

皆様のご協力をいただき、おかげさまで会報第 86 号を発行することができました。今回は新たに「心不全の話」のご寄稿などもあり、また「スペイン・モロッコ俳句紀行」は今回で終了しましたが、次回シリーズのご寄稿もいただいております。誠にありがとうございます。皆様からのご寄稿をお願いするとともに、今後とも当会へのご指導・ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

発行： ICT 海外ボランティア会(ICTOV)

会報担当： 空席のため募集中(編集長兼広報部長)、山川 博久(事務局長)

ホームページ担当： 山崎 義行(報道部長)、安達 信男(幹事)